

えばよい。

机 掌を下向け五指の指頭を前方にさした
両手を前でびったりと並らべ合わせてから、
左右に両手を水平に離して行き（机の天板）
次に両手を直角に（右手の掌は左側に左手
の掌の右側に向く）両手を平行に下へ降して
行く（机の両脚）

造る 左手でのみを握り、右手で槌を握り
持った姿態で（左手掌は右側にした拳、右
手掌を左側にした拳）、左手拳の上に右手拳
を打ち降し二三度叩たく。物を工作する身
振。

繕う

こわれる（やぶれる）
造る——よく——
繕う。

漬物 両手で重い石を右傍から持って来て
下へ押しつける身振（漬物の重石）——左手
掌を狙として、右手を鉤丁として物をぎさむ
真似。

都合 (イ) 「都合がよい」 「幸せ」の手ま
ねをする。(ロ) 「都合が悪い」 運——悪
い。

拙い 「下手」と同じ手まね。

鼓 左手で左肩の上に鼓を持つ姿態をし
て、右手掌で鼓を打つ真似。

綴方 作文と同じ手まね。

土 掌を内側にし五指の指頭を下にさした
両手の夫々の親指と他の四指の指頭をこすり
合わせる。手の中にある土を少し宛下へ撒き
降す身振。

恙がない (イ) 相変らず。過去——同じ——同
じ。過去を表わして即ち右手掌を右肩越しに
後方へ押しやって、その位置から、その手の
人差指と親指の指頭をつけ合やす（「同じ」
の手まね）その指の運動を繰返しながら、そ
の手を前方へ返して行く。(ロ) 「健康」（丈
夫）の手まね。

堤 掌を上向けて五指の指頭を左にさした右手の五指をこまかく波打たせて右へ移行させ即ち水面を表わし、同時にその水面を囲うように、掌を内側にして五指の指頭を右にさした左手を右から左へと堤を描く。

常に「毎日」「いつも」と同じ手まね。

燕 「鳥」を表わして、掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手で素速やに飛ぶ燕の運動を空間に描く。

妻 「夫」と同じ要領で女性（小指）を一方の人差指で指す。

爪弾じき 掌を上向けて五指の指頭を前方にさした左手の上に、掌を内側にして五指の指頭を下にさした右手を直角につけ、その指頭を左手の上にある物を掃き捨てるように前方へ弾じき出す。「排折する」と云う意味にもなる。

つまらない 掌を右側にした左手の指頭を

前方にさした人差指の上に、掌を下向けにし



五指の指頭を左にさした右手をたたき降して、上から左手を被うように五指を彎曲させる。

先が僅かに前に出る。「なんと、それだけしかないのか……つまらない」との意味。

任 罪 (1) 悪い——行い。(2) 悪い——責

詰襟服 両手の夫々人差指と親指の間を詰襟の高さにひろげ、その指頭を頸の後から左右夫々前へ廻し、咽のところで、ボックをかける真似。(左手の人差指と親指を小さく輪にした中へ右手の人差指をさし込む)、次に左右何れかの手の人差指と親指を輪にしたの